

巻頭言

希有な体験



公益社団法人緑の安全推進協会 **ね** **ぎし** **ひろ** **みつ**
根 **岸** **寛** **光**

昨年3月、5年間の役人生活と35年間に渡った教員生活にピリオドを打ち、残る人生を実家の寺の住職業や肩書にある団体にお世話になることで、もうしばらく世の中のお役にくらいに思っていました。昨春今回の寄稿をとの依頼があった折、業績十分な方であればご自身の専門に関するお話でいけたのですが、そんなものは皆無に等しい私は何を書くべきか思い悩みました。その直後、思わぬ体験をすることになりましたので、まるで専門分野とは異なる体験談を少しお話しします。

66歳の誕生日目前に強い疲労感が数日続いたため、6月6日に近所の医師の元に走り、気管支炎との応急診断の後に大病院での検査を勧められ、ここで当日中に心筋梗塞の発症が判明し、専門病院に救急搬送されて尿管挿入や点滴を受ける身となりました。入院直後の2～3日はカテーテルによる血流確保や心臓内の血栓溶解等の治療はあるものの家族とも普通に会話しつつ、直近の仕事のキャンセル連絡などを頼みながら、1月ほどで回復という希望的観測を抱いていました。

ところが数日後に心停止の発作を起こして意識を失いました。発作は数回にわたって起こり、その都度心臓マッサージやAED措置で何とか命をつなぐことができたとのことです。この間、当の本人は意識不明で苦痛の記憶は全くありません。ふと目が覚めて「今日は7月19日です」と聞いた時には愕然としました。

意識回復時点で感じたのは全身の筋力低下で、ペンが握れず立つこともできません。その当日から理学療法士によるリハビリ開始、8月1日に除細動器(ICD)の埋め込み手術が行われ、幸いにして術後の経過は極めて順調に推移し8月20日には退院となりました。ただ、立ちくらの頻発や下痢といった状況が退院後の2月ほど続きました。現在も食事に関して塩分制限(6g/日)が強く求められ、喉へのチューブ挿入の後遺症とかで声がうまく出せない状況が続いており、歌はおろか読経もままなりません。心筋は3割方え死して復活不能ですので運動はほぼ禁止。万一発作が起これば意識を失いますので運転はご法度です。

ここまでは単なる病気の話で、私の周囲にも似たような経験者が複数いらっしゃり、本稿表題の「希有な」ケースには当たりません。ただ、心停止発作が数回に渡って起こり、その都度死んでいてもおかしくなかったとのこと。いわゆる臨死状態に陥っていました。となると「生

き返った」私には、立花隆いうところの臨死体験とでも言うべき何かがあったのかとも思われるのですが、どうも日頃の信心が足りないせいか、その体験者がよく(?)語るどころの花畑とか光とかは見えず、外からわが身を眺めるといった記憶には全く恵まれませんでした。既に死んだ人からの「まだ早い。帰れ」とのお言葉もいただきませんでした。ただ見たものと言えれば妙な夢ばかりでした。

この夢というのが本当に脈絡のないもので、日本海に浮かぶ船の底での幽閉生活や、現生人類と異なる進化過程を経てきた人間もどきみたいな生物との交流や、韓国での蛇のたたりへの遭遇や、秩父の山荘でご馳走につられての監禁や、京都の山奥の寺に幽閉された後の脱走や、飛行機を操縦しての日本とカナダの間の往復や、演劇コンクールで下の娘の脚本が入賞する話や、変な映画の主役として野山の疾駆や、中東と思しき国の仏教遺跡の発掘での新発見や、日光江戸村での家族での探検や、東南アジアの戦時下での機密指令の実行等が思い出される場所です。何ともそれらしくない臨死体験(?)であります。変なところでは、キティちゃんによる瀕死の私の救助というのがありました。何故キティちゃんのか不思議だったのですが、主治医の先生のチームの人たちが、何かの応急キットを入れるポシットにそのアップリケをつけていたためであったらしいことが後に判明しました。意識がないままでも変な観察眼を持っていたようです。夏日漱石レベルの筆力でもあれば「夢…」でもものするところでしたが残念です。この意識不明の間に苦痛はなく、最期の瞬間は何となく特別な苦しみがないままに迎えられる感覚が得られたような気がします。

入院中は関係各方面の方々に大きなご迷惑をおかけしたことをここに改めてお詫び申し上げる次第です。また特に妻には、施餓鬼法要を挟んでの寺務等に多大な負担をかけ、いくら感謝してもしきれるものではなく、もう一生頭が上がりません。

この稿を入力している最中、お隣の中国ではCOVID-19なるものが発生・まん延して死者も多数、我が国にも既に上陸という状況です。思想信条では防げないのが病気というもので、私の仕事にも多少関係するところですが、これは動物でも植物でも変わるところはありません。いずれにせよ、どうぞ皆様お体を大切に。